

|  |     |     |        |
|--|-----|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期   | 3学年 | 2単位 | 必修     |
| 担当教員   |     |     |        |
| ◎樺澤三奈子、石田和子、高柳智子、小林綾子、横川史穂子、石岡幸恵、相澤達也、坂田智佳子、杉山潤、佐藤咲子 |     |     |        |
| 添付ファイル   |     |     |        |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 授業種類   | 【開講】<br>前期  | 【授業時間】<br>30時間  |
|  | 【担当教員】<br>【氏名】<br>◎樺澤 三奈子<br>石田 和子<br>高柳 智子<br>小林 綾子<br>横川 史穂子<br>石岡 幸恵<br>相澤 達也<br>坂田 智佳子<br>杉山 潤<br>佐藤 咲子 | 【研究室】<br>318<br>317<br>203<br>205<br>204<br>310<br>共同研究室 3<br>共同研究室 3<br>共同研究室 3<br>共同研究室 3 |
| 実務経験のある教員が担当します。   |   |   |
| 【本学の科目区分】<br>専門科目  |   |   |
| 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】<br>看護師課程  |   |   |
| 【D P 1】 <input type="radio"/> 【D P 2】 <input checked="" type="radio"/> 【D P 3】 <input type="radio"/> 【D P 4】 <input type="radio"/> 【D P 5】 <input type="radio"/> 【D P 6】 <input type="radio"/> 【D P 7】 <input type="radio"/> |   |   |

|      |   |   |
|------|---|---|
| 到達目標 | 成人期にある健康障害をきたした人の生体機能の障害とそれに伴う心身の反応、社会生活、家族に及ぼす影響を理解し、回復・適応への援助および患者教育のための看護技術を習得する。  |   |
| 授業概要 | 成人期にある健康障害をきたした事例の看護過程展開を通じて、急性期ならびに慢性期にある対象のアセスメント技術と個別的な看護計画立案方法を学ぶ。また、救命救急、周手術期、慢性期ならびに緩和ケアにおいて必要な看護技術を習得するための学習課題に取り組む。 |   |
| 授業計画 | 1   | 授業内容<br>授業形態：講義<br>学習課題：全体オリエンテーション<br>看護過程の展開と記録の活用方法<br>慢性期にある患者の看護<br>学習内容：<br>・演習の目的、方法、日程の説明<br>・看護過程を展開するための成人看護学実習記録用紙の活用方法<br>・【看護過程演習】糖尿病患者の事例を用いた看護計画の立案<br>備考： |
|      | 2-7   | 授業内容<br>授業形態：演習<br>学習課題：慢性期にある患者の看護<br>学習内容：<br>・【看護過程演習】糖尿病患者の事例を用いた看護計画の立案<br>・【看護技術演習】糖尿病患者の療養指導<br>備考：  |
|      | 8-13  | 授業内容<br>授業形態：演習<br>学習課題：周手術期にある患者の看護<br>学習内容：<br>・【看護過程演習】胃切除術を受けた患者事例を用いた看護計画の立案<br>・【看護技術演習】術後の回復促進に必要な看護<br>・【看護技術演習】輸液準備と管理技術<br>備考：                                  |
|      | 14  | 授業内容<br>授業形態：演習<br>学習課題：救命救急に必要な看護技術<br>学習内容：<br>・【看護技術演習】一次救命処置の知識と適切な処置の方法<br>備考：   |
|      | 15  | 授業内容<br>授業形態：演習   |

|                 |   |
|-----------------|---|
|                 | <p>学習課題：緩和ケアを必要とするがん患者の看護<br/>学習内容：・【看護技術演習】全般的な苦痛を体験している患者と家族に対するケア備考：</p>   |
| 事前・事後学習         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：<br/>【看護過程演習】では、事例の病態・治療とその合併症や副作用、基本的な看護方法などの予習を目的とする課題について、成人看護学の講義等で使用したテキストと配布資料、指定教材を活用して取り組む。<br/>また、提示された患者データベース・シートや経過表の情報をもとに患者のアセスメントを行う。<br/>【看護技術演習】では、技術習得やグループワークに向けた課題について、成人看護学の講義等で使用したテキストと配布資料、指定教材を活用して取り組む。</li> <li>・事後学習：<br/>【看護過程演習】では、グループワーク等で学習したことをふまえて、各自でシークエンス・オブ・イベンツ（関連図）や看護計画を記載する。<br/>【看護技術演習】では、演習後の復習・まとめを目的とする指定課題について、成人看護学の講義等で使用したテキストと配布資料、指定教材を活用して取り組む。</li> </ul> <p>* 事前・事後学習については、初回オリエンテーションで配布する資料と、演習前に配布される演習要項を確認すること（初回授業の事前学習については、開講に先立ち、どこカレ上で指示する）</p> |
| 評価方法、評価基準       | <p>授業計画に記した【看護過程演習】・【看護技術演習】の各演習の学習目標に基づく評価視点を用いて、各演習および指定課題への取り組みの内容からそれぞれの目標達成度を評価し、各評点を合計したものをお本演習の評価とする。</p> <p>各演習項目における評価視点は、知識・技術・態度である。評価視点別の配点割合は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技術 70%：知識及び技術は、根拠として知識を用い、また指導を受けて技術を実施できるレベルを目指とする。</li> <li>・態度 30%：態度は主体的な参加、グループ活動における役割遂行、他者との積極的な協調を目標とする。</li> </ul> <p>* 評価の詳細は、各演習要項を参照すること</p>  |
| 必携図書            | 日本糖尿病協会 編：糖尿病食事療法のための食品交換表、文光堂。（「慢性期にある患者の看護」で使用）   |
| 参考図書・資料等        | 黒江ゆり子、他：系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学⑥、医学書院。<br>成人看護学の講義で使用したテキスト、配布資料<br>その他の参考図書は、必要時に別途提示する。  |
| 受講、課題、資料配布等のルール | <ol style="list-style-type: none"> <li>①出席日数が規定に満たない場合は評価対象としない。20分以上の遅刻は欠席扱いとする。</li> <li>②原則として補講は実施しない。</li> <li>③事前に資料が配布された場合は必ず資料に目を通し、指定の事前学習をして演習に臨む。</li> <li>④ユニフォームの着用が必要な演習項目については、病院実習に準ずる身支度で臨む。</li> <li>⑤教室、担当教員については別途提示する。</li> <li>⑥日程等に変更がある場合はどこカレ「成人看護学演習」への掲示で通知する。</li> </ol>   |
| 教員からのメッセージ      | 成人看護学実習につながる基本的かつ重要な援助技術を学びます。限られた15回の授業で学習目標を達成し、成果を得るために、個人の積極的な参加と事前・事後のワークへの取り組みが重要となります。臨床現場をイメージしながら、真剣に取り組んでください。皆さんの主体性に期待しています。  |
| オフィスアワー         |   |